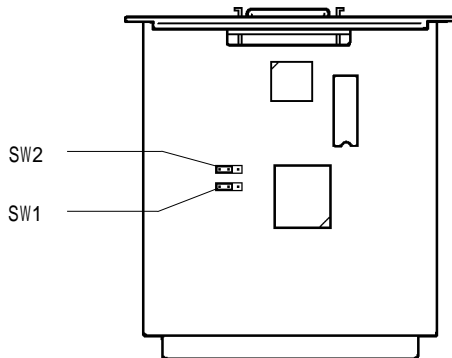


# ジャンパースイッチ

## 動作モードの設定

本製品にはSW1、SW2という2つのジャンパースイッチが存在します。  
(下図参照)このうち、SW1は工場設定用で固定されていますので、出荷時の状態から変更しないでください。

SW2は本製品の動作モードをプラグ&プレイモード(初期設定)、55互換モードに設定します。本製品をWindows95、WindowsNTで使用する場合には、プラグ&プレイモードに設定してください。これ以外のOSで使用する場合は、55互換モードに設定してください。この2つの動作モードに性能の優劣はありません。



SW1	 3 2 1	固 定	
SW2	 3 2 1	プラグ&プレイ モード (初期設定)	Windows95 WindowsNT で使用する 場合
	 3 2 1	55互換モード	上記以外のOSで 使用する 場合

# 第5章

# セットアップメニュー

プラグ&プレイ環境でない場合、本製品の設定はソフトウェア（セットアップメニュー）から簡単に変更することができます。また、セットアップメニューには、本製品を使用する上で便利な機能がありますので、本章の内容には1度目を通しておいってください。

## 5.1 セットアップメニューの起動

セットアップメニューを起動したい場合は、SCSI機器、パソコン本体の順に電源を入れ、キーボード上の〔CTRL〕キーと〔L〕キーを押し続けてください。

**Point**

ポイント

〔CTRL〕 + 〔L〕キー・・・セットアップメニューの起動

このようにするとセットアップメニューが起動し、以下の画面が表示されます。






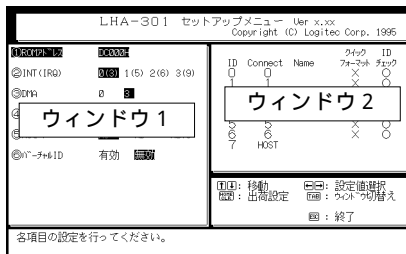
ご注意

もし、前ページの画面が表示されない場合は、パソコン本体のリセットボタンを押して、同じ操作を行なってみてください。

## 5.2 キー操作について

セットアップメニューでは、以下のキーを使用することができます。

- [ ] [ ] ウィンドウ1ではカーソルを項目間で移動します。ウィンドウ2ではカーソルをIDナンバー間で移動します。
- [ ] [ ] ウィンドウ1ではカーソルのある項目の設定を変更します。ウィンドウ2ではカーソルを横に移動します。
-  ウィンドウ2でカーソルのある項目の設定を変更します。
- [ HOME CLR ] 現在カーソルのあるウィンドウの全項目を出荷時設定に戻します。(ただし、ウィンドウ2のNameを除きます。)
- [ TAB ] カーソルをウィンドウ間で移動します。
- [ ESC ] セットアップメニューを終了します。



## 5.3 設定項目について

### ウィンドウ 1

①ROMアドレス	DC000F
②INT (IRQ)	0(3) 1(5) 2(6) 3(9)
③DMA	0 3
④転送方式	SMT I/O DMA
⑤モード	MO HD AUTO
⑥チャンネルID	有効 無効

#### ROMアドレス

本製品のBIOS ROMアドレスを設定します。通常は変更の必要はありません。

#### INT (IRQ)

本製品の使用する割り込みを設定します。割り込みはINT番号で表記される場合と、IRQ番号で表記される場合がありますので、両方が併記されています。( )の中が、IRQ番号です。

本製品の使用する割り込みが他の拡張ボードなどと重複すると、多くの場合システム起動時に停止してしまいます。他の拡張ボードなどと重複しない番号を指定してください。

#### DMA

本製品の使用するDMAチャンネルを設定します。

本製品の使用するDMAチャンネルが他の拡張ボードなどと重複すると、本製品もしくはそのDMAチャンネルを使用している機器が正常に動作しなくなります。(結果としてシステムが停止する場合もあります。)他の拡張ボードなどと重複しない番号を指定してください。割り込みに比べるとDMAチャンネルが重複するケースはまれです。ただし、SoundBlaster互換の音源などはDMAを使用していますので、ご注意ください。

### 転送方式

本製品のデータ転送方式を「SMIT転送」、「I/O転送」、「DMA転送」から選択します。通常の場合「SMIT転送」のままで、変更する必要はありませんが、もし、何かのトラブルが発生した場合には、他の転送方式で試してみてください。

条件にもよりますが、この3つの転送方式は「SMIT転送」が一番高速で「I/O転送」が中間、「DMA転送」が一番低速になります。

### MOモード

本製品に光磁気ディスクユニットを接続した場合、光磁気ディスクユニット(MO)として認識するか、ハードディスクユニット(HD)として認識するかを設定します。(ただし、この設定はMS-DOSでのみ有効になります。)通常は「MO」でご使用ください。

### パーティシャルID

これはIDナンバーの変更できないSCSI機器のIDナンバーを仮想的に変更するための機能です。例えば、IDナンバー0で固定されたハードディスクが接続されていた場合に、これを他のIDナンバーに設定して、ドライブ番号の割り当てなどを変更することができます。(真のIDナンバーはウィンドウ2の「Connect」欄に、仮想的なIDナンバーは「ID」欄に表示されます。)


ただし、この機能を使用すると機器のIDナンバーがわかりにくくなり、IDナンバーの重複などの原因にもなりますので、通常の場合には使用しないでください。

①ROMアドレス	DC0000
②INT (IRQ)	0 (3) 1 (5) 2 (6) 3 (9)
③DMA	0 3
④転送方式	SMIT I/O DMA
⑤MOモード	MO HD AUTO
⑥パーティシャルID	有効 無効

## ウィンドウ 2

ID	Connect	Name	クイック フォーマット	ID チェック
0	0		X	○
1	1		X	○
2	2		X	○
3	3		X	○
4	4		X	○
5	5		X	○
6	6		X	○
7	HOST		X	○

ウィンドウ 2 では接続された機器の ID ナンバーごとに、それぞれの機器の設定を行なうことができます。

[ ] [ ] キーで設定を変更する機器の ID ナンバーを選択し、[ ] [ ] キーで変更する項目にカーソルをあわせませす。変更する項目にカーソルがある状態で、 キーを押すと設定を変更できます。

### Point

#### ポイント

ID ナンバー「7」は本製品の ID ナンバーとなるため、「HOST」と表示され、設定を変更することはできません。

#### ID 欄

SCSI 機器の ID ナンバーが表示されます。バーチャル ID 機能を「有効」にしている場合は、ここで表示される ID ナンバーは「仮想的な」ID ナンバーです。

#### Connect 欄

通常、ID 欄と同じ数字が表示されています。バーチャル ID 機能を「有効」にしている場合は、ID 欄の仮想 ID ナンバーに割り付ける「真の」ID ナンバーを入力します。例えば、ID 欄：0 に Connect 欄：3 を入力すると、真の ID ナンバー 3 の機器が ID ナンバー 0 として扱われます。

これを読んでもわかるように、バーチャル ID 機能は非常に煩雑ですので、通常は使用しないでください。

### Name欄

SCSI機器の判別を容易にするために、半角5文字以下で機器に名前を付けることができます。ここでは日本語フロントエンドプロセッサが使用できませんので、全角文字は入力できません。

### クイックフォーマット

SCSIハードディスクのクイックフォーマット欄を「」にすると、そのハードディスクのフォーマットはごく短時間で終了します。ただし、ハードディスクの表面検査が行なわれませんので、トラブルが発生したハードディスクをフォーマットする場合には、この機能を使用しないでください。また、BIOSを経由しないでアクセスを行なうOSでは、この機能は使用できません。

### IDチェック

各IDナンバーに対して、システム起動時の接続チェックを行なうか（）、行なわないか（）を設定します。


SCSI機器が接続されていないIDナンバーをすべて「」にしておくと、機器のタイムアウトを待ちませんので、短時間でシステムを起動できるようになります。

ただし、このように設定した場合、新規のSCSI機器を接続したり、IDナンバーを変更した時に必ずIDチェックの設定を更新しなければなりません。これを行なわないとSCSI機器が認識されないトラブルが発生します。

ID	Connect	Name	クイック フォーマット	ID チェック
0	0		X	○
1	1		X	○
2	2		X	○
3	3		X	○
4	4		X	○
5	5		X	○
6	6		X	○
7	HOST			○

## 5 . 4 セットアップメニューの終了

---

設定がすべて終了したら、〔ESC〕キーを押してください。以下のよう  
に表示されますので、設定内容を保存したい場合は「保存」、保存し  
たくない場合は「破棄」にカーソルをあわせて、キーを押してくだ  
さい。

設定を終了します。 **保存** 破棄

「保存」 / 「破棄」どちらを選択した場合でも、自動的にシステムが  
再起動します。



## 第6章

# マルチベンダ機能

他のSCSIインターフェースボード（弊社従来品を含む）に接続してフォーマットを行なったハードディスクを本製品に再接続すると、論理パラメータの相違から認識されない場合があります。

このようなトラブルを解消する機能を「マルチベンダ機能」と呼び、本製品の場合はHDパラメータ自動解析ユーティリティ（以下、自動解析ユーティリティ）から行ないます。

### 6.1 自動解析ユーティリティの起動

---

自動解析ユーティリティを起動したい場合は、認識できないハードディスクを接続した状態で、SCSI機器、パソコン本体の順に電源を入れ、画面上部に「Logitec LHA-301 SCSI BIOS Verx.xx Initializing...」と表示されたら、キーボード上の〔CTRL〕キー、〔GRPH〕キーと〔L〕キーを押し続けてください。

画面上部にIDナンバーとSCSI機器のリストが表示され、その下に〔analyze on〕と表示されたらキーから手を離してもかまいません。

#### Point

ポイント

---

〔CTRL〕 + 〔GRPH〕 + 〔L〕キー・・・自動解析ユーティリティの起動

---

自動解析ユーティリティが起動すると、以下のような画面が表示されます。(IDナンバー、パラメータの数値は接続されたハードディスクによって異なります。)

LHA-301 HDパラメータ自動解析ユーティリティ Vx.xx Copyright (C) Logitech Corp. 1995									
ID	MODEL	シリンダ	ヘッド	セクタ	容量	Name	結果	登録	
0	NEC D3556	1250	4	41	102		○	○	
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7	HOST ID								
前回登録値:									
<input type="checkbox"/> ID選択 <input type="checkbox"/> 登録 <input type="checkbox"/> 削除 <input type="checkbox"/> 修正 <input type="checkbox"/> 終了									

## 画面表示内容について

「ID」はSCSI機器のIDナンバーです。以下のデータは該当するIDナンバーの機器がSCSIハードディスクであった場合のみ表示されます。

「MODEL」はハードディスク内部のドライブ型番、バージョンなどが表示されます。「シリンダ」、「ヘッド」、「セクタ」にはそれぞれの論理パラメータが表示されます。「容量」は該当するハードディスクの総容量、Nameはセットアップメニューで設定可能な名前が表示されます。

「結果」の欄は以下のどれかが表示されます。

- パラメータ読み込み成功
- × パラメータ読み込み失敗  
前回読み込んだパラメータと異なるパラメータが読み込まれた

「登録」の欄は以下のどれかが表示されます。

- パラメータ登録完了
- × パラメータ未登録

## 6.2 パラメータの登録と終了について

---

自動解析ユーティリティは起動後、自動的にパラメータをSCSIインターフェイスボードに登録します。そのため、画面の「結果」欄、「登録」欄がすべて になっている場合は、そのまま〔ESC〕キーを押してください。（もし、「結果」欄に×が表示されている場合は、6.3節をご参照ください。）

「終了してもいいですか?」と表示されたら、「はい」にカーソルがある状態で  キーを押してください。自動解析ユーティリティが終了して、システムが起動します。

システム起動後、ハードディスクにドライブ番号が割り振られていることを確認してください。

## 6.3 パラメータの手動入力について

---

もし、自動解析ユーティリティの画面で「結果」欄に×が表示されている場合は、何かの原因でハードディスクからパラメータが読み込めなかったことを意味します。

このような場合には、パラメータを手動で入力する必要があります。この作業は以下の手順で行ないます。

まずハードディスクをフォーマットした時に接続していたSCSIインターフェイスボードのメーカーに、論理パラメータ（シリンダ数、ヘッド数、トラックあたりのセクタ数）を問い合わせてください。

正しいパラメータが判明したら、自動解析ユーティリティを起動します。前ページの画面が表示されたら、〔 〕〔 〕キーでカーソルをハードディスクのIDナンバーにあわせて、〔HELP〕キーを押してください。

パラメータが修正可能な状態になりますので、正しいパラメータを入力してください。

入力が終了したら、〔f・1〕キーを押します。入力した行のパラメータが登録され、「ID xにこのパラメータを登録しました。」と表示されます。

〔ESC〕キーで自動解析ユーティリティを終了します。

システムが起動したら、ハードディスクが論理ドライブとして認識されたことを確認してください。

## 6 . 4 自動解析ユーティリティの自動起動

---

自動解析ユーティリティを起動して、パラメータの登録を行なった場合、登録されたIDナンバーに別のハードディスクが接続されると、システム起動時に自動解析ユーティリティが自動起動します。

自動解析ユーティリティが自動起動すると、変更されたハードディスクの行には新しいパラメータが表示され、「結果」欄は、「登録」欄はxが表示されます。これはパラメータが異なるため、新しいパラメータを上書きで自動登録しなかったことを意味します。

このような場合には〔f・1〕キーでパラメータを手動登録して、〔ESC〕キーで終了すると、新しいハードディスクを認識することができます。



### ご注意

---

ハードディスクを取り外した場合や、パラメータが登録されていないIDナンバーにハードディスクを接続した場合は、自動解析ユーティリティの自動起動は行なわれません。

---